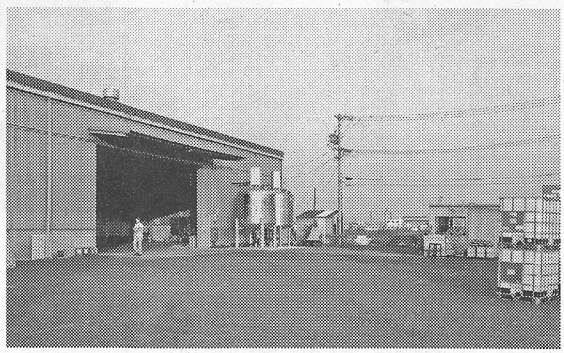
本社・工場の移転で業務拡張へ

環境テクシス　有価物の受け入れも強化

食品残さの飼肥料化事業を展開する環境テクシス(愛知県豊川市、高橋慶社長、☎0533・87・5512)は8月、本社・工場を移転し、業務拡張に向けた動きを加速させている。移転先は同市内だが、敷地面積は従来の250坪から800坪に拡大。さらに多くの原料を受け入れられる体制が整った他、将来的な設備拡充にも備える。



新本社・工場の外観

内部のようす

同社は2007年の設立。食品残さ・有機汚泥の肥料化に始まり、近年は液体飼料(リキッドフィード)化事業に注力している。昨年には、一般廃棄物処分業の許可を取得し、液体飼料化設備の処理能力も1日当たり約25トンから同55トンに引き上げるなどして、事業強化を図ってきた。

現在は、食品工場を中心に野菜くずや菓子類、シロップジュースなどを1日当たり約10トン受け入れ、各性状に応じて液体飼料と乾燥飼料に作り分けている。

7月には、県の今年度「循環型社会形成推進事業費補助金」の採択を受け、野菜くずを酵素処理して養豚用飼料に活用する研究を進めることが決まった。

高橋社長によると、野菜くずはサラダ工場、カット野菜工場、漬物工場などから大量に排出され、これを飼料化したいとする問い合わせが増えているという。野菜くずは繊維が多く飼料に混合できる割合が限られているため、同補助金を活用して検証を進めたいとする。

今回の工場移転について高橋社長は、「敷地面積が広がったことから、原料のストックがしやすくなった。小麦粉や酒かすといった有価物の受け入れを積極的に行っていきたい」と話している。

新住所は、愛知県豊川市白鳥町山桃5－1。連絡先に変更はない。

2013.9.3 循環経済新聞